

# 南薩地域における極早生温州 「ゆら早生」の産地育成の手引き



鹿児島県南薩地域振興局農林水産部農政普及課

# 目 次

## I 品種・技術の導入概要

- 1 品種の特性
- 2 取り組む理由（産地の現状）
- 3 導入することで見込まれる成果

## II 実施体制・産地育成の流れ

- 1 関係機関等の役割
- 2 体制フロー図
- 3 導入までの流れ

## III 産地導入に向けた取組内容

- 1 南薩地域における実証ほ結果について
  - (1) 果実肥大推移（横径）の把握
  - (2) 果実品質の把握（10月上旬）
  - (3) かいよう病発生程度の把握
  - (4) 外観・等級の把握
  - (5) 10aあたり収量・粗収入の把握
- 2 産地における検討会について  
　　産地における検討会での情報共有
- 3 先進地調査について  
　　和歌山県果樹試験場における情報収集
- 4 実需者との意見交換及び量販店調査について
  - (1) 市場関係者・実需者との意見交換、販路開拓
  - (2) 販売店での消費者ニーズの把握、販路拡大

## IV 品種・技術の導入状況（モデル園）

- 1 モデル園（U園）の導入状況（平成30年度）
- 2 モデル園（A園）の導入状況（令和元年度）

## V 収穫調査時点の着色程度・かいよう病発病程度

# I 品種・技術導入の概要

## 1 品種の特性

○品種名：極早生温州「ゆら早生」

○特性

- ①樹姿は開張性で、樹勢は中程度
- ②果形は球形に近い
- ③糖度が高く、食味が良好



「ゆら早生」の収穫期果実



「ゆら早生」の樹姿・樹勢（樹齢20年以上）

## 2 取り組む理由（産地の現状）

○品種の特性把握

- 「ゆら早生」の特性把握  
→南薩地域の土壤、気象条件における果実品質確認
- 現地検討会による栽培農家との情報共有  
→実証設置による着果・果実肥大・品質等調査の実施と情報の共有

○実需者・市場関係者との意見交換

- 実需者とのマッチング活動、情報収集

## 3 導入することで見込まれる成果

（これまで）

和歌山県で育成された極早生温州「ゆら早生」は、20年ほど前に鹿児島県南薩地域に一部導入されたが、極早生温州の中でも成熟期がやや遅く、鹿児島県の極早生温州の販売戦略と合わなかったため、地域での普及品種に至っていない。

○ 近年、極早生温州は品質重視の傾向が強まり、糖度が高くクエン酸とのバランスの良い「ゆら早生」の市場評価が高まっていることから、再度、地域での普及に向け、技術確立や流通関係者との意見交換・連携により、強みのある品種として小規模ではあるが産地育成・共販量増加につなげる。

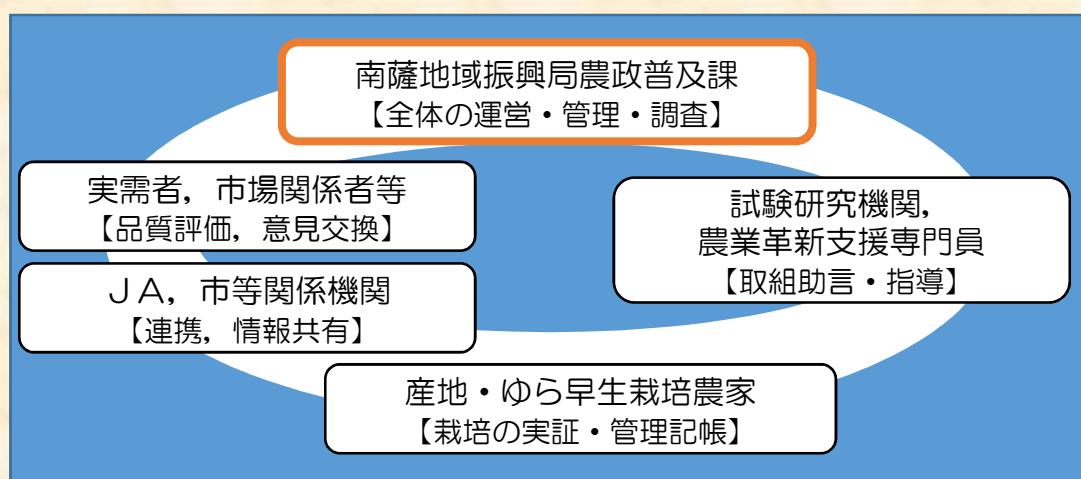
## II 実施体制・産地育成の流れ

### 1 関係機関等の役割

【 実施期間 平成30年度～令和元年度 】

- 実施主体 南薩地域振興局農政普及課
- 関係機関 JA南さつま、枕崎市、南さつま市、南九州市 等
- 生産組織 JA南さつまゆら早生栽培農家
- 流通機関 市場関係者、量販店実需者 等

### 2 体制フロー図



### 3 導入までの流れ

#### ○1年目の取組

- ・ 現地検討会の開催
- ・ 現地における特性調査
- ・ 市場関係者との連携、販路開拓

#### ○2年目の取組

- ・ 現地検討会の開催
- ・ 現地における特性把握
- ・ 市場関係者、量販店実需者との連携、販路拡大

### III 産地導入に向けた取組内容①

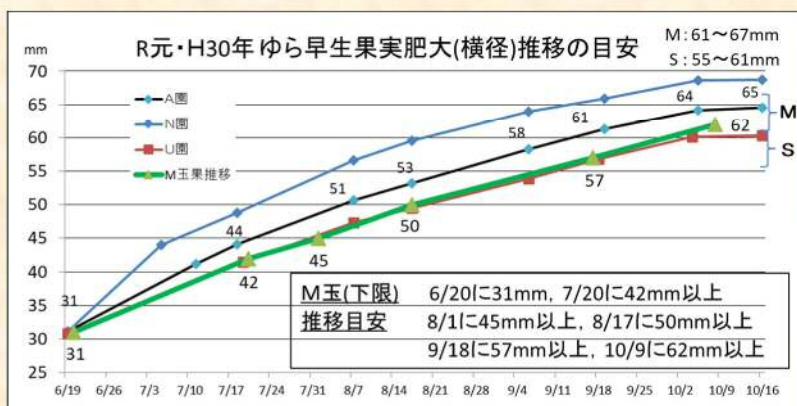
#### 1 南薩地域における実証結果について

##### ○ 実証結果について

- (1) 果実肥大推移（横径）の把握
- (2) 果実品質の把握（10月上旬）
- (3) かいよう病発生程度の把握
- (4) 外観・等級の把握
- (5) 10aあたり収量・粗収入の把握

##### (1) 果実肥大推移（横径）の把握

南薩地域の気象条件における果実肥大推移は、A園はM階級、U園はS階級の肥大推移となり、2カ年の肥大推移（有葉花）をもとにM階級下限の肥大推移目安の作成につなげた。（令和元年は、果実肥大期の6月～7月は降雨が多く、梅雨明け後7月末から8月上旬、9月から10月は乾燥傾向の年である）



##### (2) 果実品質の把握(10月上旬)

収穫期の果実品質（10月上旬）は、糖度11、クエン酸1%程度となり、S～M階級の果実づくりにより2か年継続して良好な果実品質となった。

（南薩地域の土壤でマルチ（透湿性シート）の無い露地栽培の条件である）

R元年ゆら早生果実調査結果(5果平均)		調査日：R元年10月9日 満開日：5月1日(有葉花)			
	縦径(mm)	横径(mm)	重さ(g)	糖度	クエン酸(%)
A園	50.8	60.1	94	11.0	0.88
U園	49.6	60.7	92	11.4	1.06
(平均)	50.2	60.4	93.4	11.2	0.97

H30年ゆら早生果実調査結果(3果平均)		調査日：H30年10月16日 満開日：4月28日(有葉花)			
	縦径(mm)	横径(mm)	重さ(g)	糖度	クエン酸(%)
A園	55.5	68.5	118	11.0	0.83
U園	53.9	63.2	105	12.3	0.81
(平均)	54.7	65.9	111.5	11.7	0.82

### III 産地導入に向けた取組内容②

#### (3) かいよう病発生程度の把握

ゆら早生は、かいよう病対策が課題の1つである。平成30年にかいよう病が発生した2園地において、令和元年のかいよう病の発病果率を調査したところ、5%（少発生園）と41%（連続多発園）の差になった。

両園地における防除・管理の差をみると、防風対策と共に、前年の罹病部分（枝葉）の除去管理及び予防散布（適期・適散布量）の徹底が重要と考えられた。（散布量としては、樹全体に十分かかる400L/10a程度が目安である）

R元年ゆら早生 かいよう病発病果数、発病程度調査結果（各園1樹）							調査日：R元年10月9日
果数	1樹 (発病果率)	かいよう病発病果数 (発病果率)	かいよう病発病程度別果数(果)／(発病果率)				合計
			病斑多	病斑中	病斑少	極小	
A園	434	22 ( 5% )	0 ( 0% )	1 ( 0% )	4 ( 1% )	17 ( 4% )	412 434
N園	312	129 ( 41% )	19 ( 6% )	42 ( 13% )	34 ( 11% )	34 ( 11% )	183 312
(平均)		373					

#### (4) 外観・等級の把握

外観の等級低下の要因は、かいよう病及び日焼け果によるものが多く、かいよう病及び日焼け果対策をすることで、秀品率を70%以上に向上させることができると考えられた。（近年は9月まで気温が高く、日焼け果対策が重要となる）

R元年ゆら早生 外観等級調査結果（各園1樹）				調査日：R元年10月9日			
果数	1樹 (発病果率)	かいよう病果数 (発病果率)	傷・日焼け果数 (発生果率)	外観等級(果)／(等級割合)			
				秀	優	良	合計
A園	434	22 ( 5% )	101 ( 23% )	300 ( 69% )	97 ( 22% )	37 ( 9% )	434
N園	312	129 ( 41% )	54 ( 17% )	123 ( 39% )	72 ( 23% )	117 ( 38% )	312
(平均)		76	78				

#### (5) 10aあたり収量・粗収入の把握

10a目標収量は3.5tとなり、秀品率70%（S・M階級中心）、単価250円（10月中旬市場単価）を基に、秀品の粗収入を換算すると、61万円程度となつた。（更なる粗収入向上には、単価や秀品率を向上させる取組が必要となる）

R元年ゆら早生 収量・階級調査結果（調査樹：各園1樹）							調査日：R元年10月9日		
1樹	果数(果)	収量(kg)	樹容積 (m³)	10a換算 収量(kg) (90本/10a)	階級別果数(果)			合計	
					L果	M果	S果		
A園 (10年生)	434	39.3	7.6	3535 (90本/10a)	0 ( 0% )	19 ( 4% )	111 ( 26% )	198 ( 46% )	106 434
N園 (9年生)	312	27.6	6.7	2486 (90本/10a)	1 ( 0% )	13 ( 4% )	73 ( 23% )	132 ( 42% )	93 312
(平均)		33	7.2	3010					

### III 産地導入に向けた取組内容③

#### 2 産地における検討会について

- 産地における検討会での情報共有
  - ・ 実証調査結果検討
  - ・ 先進地の情報紹介
  - ・ 現地における栽培の現状と課題



「ゆら早生」室内検討会



「ゆら早生」現地検討会

#### 3 先進地調査について

- 和歌山県果樹試験場における情報収集
  - ・ ゆら早生栽培マニュアル（平成21年3月作成版）
  - ・ 温州ミカン新品種「YN26」の品種特性と栽培上の注意点  
（平成27年3月作成版）
  - ・ 「YN26」と「ゆら早生」の樹勢比較
  - ・ 有葉花主体の栽培管理
  - ・ 品質安定に向けた水分管理



YN26

ゆら早生

7年生樹姿比較（和歌山果試H30.8.28）



YN26

ゆら早生

8年生樹姿比較（和歌山果試R元.9.24）

### III 産地導入に向けた取組内容④

#### 4 実需者との意見交換及び量販店調査について

##### (1) 市場関係者・実需者との意見交換、販路開拓

- 消費地の市場関係者との意見交換
  - ・ 市場関係者への品質、産地状況等の情報提供
  - ・ 市場流通における実需者からの情報収集、販路開拓
  - ・ 次年度に向けた流通対策検討



市場関係者との意見交換



実需者との意見交換

##### (2) 販売店での消費者ニーズの把握、販路拡大

- 販売店舗での販路拡大
  - ・ 販売店での消費者ニーズ把握
  - ・ 販売単価等の把握
  - ・ 流通における現状と課題
  - ・ 次年度に向けた販路拡大検討  
(スタンドバックによる販売提案)



販売企画での情報収集



スタンドバックの作成・提案

## IV 品種・技術の導入状況（U園）①

モデル園（U園） 平成30年4月24日



平成30年5月16日



平成30年5月24日

